

## 戸建て住宅居住に伴う生活財の保有と住生活の変容 (第1報)

## — 婚礼調度品からみた生活財の特性と住生活 —

岡山大・院 ○河内 美智 岡山大 富士田 亮子

目的：一度にまとめて住居内に持ち込まれる婚礼調度品は結婚時から現住宅居住に至るまでの生活財の保有の変化をみることができる。そこで、婚礼調度品の保有変化を通して、生活財の保有にかかわる要因、保有状況からみた生活財の特性を第1報で、戸建て住宅居住に伴う生活財からみた起居様式を左右する住宅、室特性を第2報で明らかにする。

研究方法：対象者は大都市と地方都市および婚礼調度品についての習慣の違いを考慮して岡山、名古屋の戸建て住宅に居住の主婦またはそれに代わる者とした。調査方法は留め置き自記法によるアンケート調査である。有効回収数は266票（名古屋100票、岡山166票）回収率は89%である。調査時期は1997年9月から10月である。

結果：①婚礼調度品の保有変化とその要因の関係では、転居に伴う住宅形態の変化が生活財の処分につながり、家族周期段階では第1・第2教育期で実家や住戸外に別置が、第2教育期及び成長期後半で処分が多くなり、成長期後半になると保有状況は安定するという状況が窺われる。②生活財は、婚礼調度品としての準備率と現在の保有家具の関係から、準備率、保有率ともに高い基本的な生活財、住居形態や起居様式、家族状況によって保有変化の大きい変動的な生活財、そして、準備率、保有率ともに低い選択的な生活財の3タイプに大別できる。また、生活財の保有傾向としては椅子座の指向がみられる。今後の住居計画においては、基本的な家具のための空間確保、あるいは、つくりつけ家具の必要性が指摘される。③婚礼調度品の準備段階では地域特性があるが、保有状況は住宅の影響が大である。